

## 開発教育支援事業の現場から



▲クイズでわかりやすく説明する仲沢さん

4月30日(木)、北海道滝川高等学校の2年生がJICA札幌に訪しました。この日は、大洋州・島サミットの対象国であるマーシャル諸島についての紹介と、青年海外協力隊体験談発表が行われました。マーシャル諸島の生活・文化・自然についてパワーポイントを使って分かりやすく説明しました。普段、全く聞いたことのない国の話に生徒さんたちから「自分の視野が広がり、視点を変える良い機会となった」という声が多く寄せられました。

JICA札幌の出前講座・施設訪問は各学校の希望に応じてプログラムを組み立てます。青年海外協力隊の体験談の他にも、異文化理解・教育・環境問題等のワークショップを体験しながら国際協力について学ぶことができます。詳しくはJICA札幌市民参加協力課 仲沢までお問い合わせください。

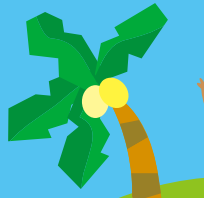


仲沢 真理子さん

2005年11月～2007年11月、青年海外協力隊(小学校教諭)としてマーシャル諸島に派遣される。枝幸町出身。自分の協力隊体験談はもちろん、国際理解を助けるワークショップも得意

世界へ飛び出せ!

# 南の



# この人に注目!!

帰国後1カ月半が経過した川口さんに、今の思いを綴っていただきました。



川口孝太郎 さん

シニア海外ボランティア  
(バヌアツ:都市計画アドバイザー)

「人のためだからこそ、生きられる。」そんな言葉を実にさりげなく、自然体で話す川口さん。北海道夕張郡栗山町の町長から一転、シニア海外ボランティアに志願した動機を尋ねると、「高校生の頃に読んだシュバイツァー博士の伝記に感銘を受け、いつかは自分も海外で人の役に立ちたいと考えた。40年抱き続けた夢だから、実現しなかったら死ぬに死ねないしょ!」と笑顔で返ってきました。



▲剣道の教え子たちと。道具は北海道庁剣道部から贈られてきた



バヌアツは  
オーストラリアに  
近いメラネシア  
にあるんだよ。

▲取材を受ける川口さん。  
言葉のひとつひとつが聞き  
手をひきつけます

## 地上の楽園、バヌアツ

バヌアツはどこにあり、どういう国なのか?一般の人にはあまり知られていない。しかしここ2~3年、時々マスコミなどでバヌアツが紹介されるようになった。理由はいろいろあるが、一つは2006年、イギリスのシンクタンクが「地球を傷つけず、世界で一番幸せな国はバヌアツ」と発表したことが影響しているようで、それ以来観光客が増えてきている。

「バヌアツは地上の楽園」。

ジャングルに行けば食べ物が豊富にあり、働かなくても食べていけるのだからこんなに幸せな国はないと思う。まさに、聖書に出てくる「エデンの園」ではないかと思ってしまう。ある資料によると、白人がバヌアツへ上陸すると病原菌もバヌアツへ上陸してきた。

病原菌は免疫のないバヌアツ人を襲い、19世紀初頭100万人いたと推定される人口が、1935年の調査ではわずか4万人になった。まさに文明は、よい面ばかりではなく、恐ろしい面も持っている。バヌアツの文明化について、JICAのシニア海外ボランティアとして、いかに対応すべきか?バヌアツの人材が育ち、彼らがバヌアツの進むべき方向を決めるべきであろう。私としては、バヌアツばかりでなく南太平洋の島々が、世界の楽園として残ればいいなと思っている。

2009年5月 川口孝太郎

こんなエメラルド  
グリーン色を  
してるキレイな  
池があるんだね

